

2006年5月総会

大阪経済記者クラブの皆様には、お忙しいところ、本日の総会にご参加いただき、ありがとうございます。

2006年度事業計画をはじめ、すべての案件が、無事に承認されました。さきほど総会後の理事会で決定されたように、新しく玉越副会長にご就任いただき、11副会長、各委員長、副委員長による強力な布陣で、この一年決意を新たに関西の発展に取り組んでまいる所存であります。

(今年度の活動への思い)

さて、わが国の景気は現在、52ヵ月間にわたる上昇を続け、この11月には戦後最長の「いざなぎ景気」を超える状況にありますが、足元ではやや景況感に陰りも見られ、持続的成長に向けて気を緩めることなく頑張りたいと思います。

さらに、日本は今、米国景気の落ち込みや中国との政治的関係、原油価格の高騰といった「外からのリスク」以上に、日本人の強みが崩壊する「内なるリスク」という根本的な問題に直面しており、この克服なくして持続的発展は望めません。

したがって、日本人がかつて持っていた「相互信頼」のネットワークや「創造的努力」の精神を取り戻し、その上に立って良き社会を創っていくという「こころの改革」が不可欠になってきております。関経連としてはまさに、この「こころの改革」を今年度の活動の中核に据えてまいりたいと思います。

まず、企業経営については、これまで日本的企業集団の中での「相互信頼」のネットワークに安住していましたが、その無警戒さを投資ファンドにつかれたり、また、耐震設計偽造や監査法人問題などモラルハザードが発生しています。

この問題も、企業の「こころの改革」の根本に立ち返って考えていく必要があるのではないのでしょうか。

企業の本質は、社会や顧客との信頼の絆を強めるために真摯に努力すること

であり、短期的な価値を追い求めることではありません。

さらに、相互信頼のネットワークが損なわれている現状では、それを補い、信頼社会を再構築するための施策が不可欠であります。例えば、投資ファンドについては、活動の透明化や公益的企業の買収に関する監視等が必要であります。また、市場のモラル低下についても、ルールの厳格化と法律の遵守が重要であることは言うまでもありません。

その点で、本年度立ち上げる「関西企業価値研究会」では、そうした関西企業の根本にまで立ち戻り、企業の倫理・精神性から長期的な市場価値向上までを視野に入れた、あるべき経営モデルを考え、実践してまいります。

次に、「創造的努力」を積み重ね、地域の競争力を強化するためには、街の魅力づくりや、イノベーション拠点の整備などの充実というハードの整備だけでなく、伝統文化の振興などソフト面の施策を進めねばなりません。特に大阪駅北地区開発、関空 期事業といったプロジェクトの着実な推進を図りたいと思います。

さらに、関西の発展にとって大きな鍵を握っているのは、アジア諸国をはじめとする海外との交流・連携であります。関西としては、今後アジア経済圏相互の交流のつなぎ役、あるいはアジアと世界の橋渡し役となることを目指さなければなりません。

そのためには、現在困難を抱えている中国をはじめとする近隣諸国との関係についても、関西から新たな信頼関係構築を発信してまいります。

その点で、関西としては、まず日本自身がアジア各国間の信頼のネットワークの拡大に、引き続き戦略的に取り組んでいきたいと考えています。

以上についての具体的な方策は、総会で申し上げたとおりですが、本年は経連の創立60周年を迎え、まさに新たな気持ちでこれらを展開していくべき時だと考えております。

関西の先人たちは、幾度もの歴史的転換期を、持ち前の「先見性」「知恵」「決断力」で乗り越えて来ました。われわれもその伝統と歴史に学び、関西発の発展モデルを日本、そして世界へ発信していけるよう、全力で取り組んでまいり

たいと思います。

最後になりましたが、大阪経済記者クラブの皆様におかれましては、変革する関西を全国に情報発信いただくとともに、関経連の諸活動につきましても、引き続き、ご指導・ご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

以上